

企業名： SCREEN ホールディングス

レポート名： SCREEN ホールディングス統合報告書 2026

1. この会社が目指す姿が理解できるか（将来）

理解できる。

SCREEN ホールディングスは、AI が高度化していく世の中で、その技術と人を繋ぐ役割を担うことを目指していることが分かる。また、創業の精神として掲げている「思考展開」という考えをもとに、既存の技術から繋がりのある新しい分野にも挑戦していく志がうかがえる。また長期的な計画については経営大綱に投資原資の 70%を既存事業への自己投資、イノベーションマネジメントによる新規事業の創出への再投資による持続的成長を目標とし、非財務計画についてもまとめられている。また中期経営計画の中では売上高 1 兆円企業を目指すことを明言して、事業ごとのポートフォリオを見える化し、人材戦略やサステナビリティ戦略などの分野ごとに詳細な施策を言及している。

2. この会社の競争優位性が理解できるか（現在）

概ね理解できる。

SCREEN ホールディングスの競争優位性は様々な市場において、世界トップシェアを獲得している点にあると考える。その例として、洗浄装置、ディスプレイ製造装置が挙げられている。また AI が高度化していく中、その高度化を支える側を担うため、これから更に需要が上がることも優位性に当たる。しかし環境への配慮について、GHG 排出量や純水使用量の削減については、それぞれ 40%、30%の削減というのは目を引くほどの結果には思えず、他の企業との比較があるわけでもないからその特異性は充分には理解できない。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか（変化）

持続性があると理解できる。

洗浄装置のトップのシェアを支えるものとして、世界のトップシェアメーカーとの長年にわたるビジネス関係の構築が挙げられている。この関係性はこれまでの信頼が裏付けになっており、重大な信頼問題が起きない限り崩れることはないと考えられる。そのため、このトップシェアには持続性があると考えられる。しかしディスプレイ製造装置についてはその優位性の根拠は顧客からの信頼など不確実なものしか見受けられなかった。また AI が高度化していくこのさき、これからの SCREEN ホールディングスの活躍が楽しみである。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

達成できると思う。

一見すると、技術的なことを行っており、文型とは少し無縁にも見える。しかし、今後の計画を読むと、信頼という言葉が多用され、海外のパートナーとの連携の強化や顧客との関係性の強化など、人や企業や社会との繋がりを大切にしている企業に感じた。その点においては私自身も大切にしている価値観と一致しており、繋がりを大事にすることは長期的に見た会社の価値の向上に繋がると考える。また、重要課題として人財をテーマに、社員の一人一人の成長を促進することを掲げており、具体的な施策も記載されていた(p.53)が、人財の価値を信じ、そこに力を注ぐことも 10 年後の企業の価値を確実に向上させると考える。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

よかったところ

明確な数字が明記されていて、説得力があった。また、それについてのグラフも評価的に活用出来ていたと思う。可視化することで、文でも視覚的にも課題と目指す姿の因果関係、関係性の明確化が出来ていると感じた。また、最初から最後まで意見に一貫性を感じた。これにより、顧客との信頼の構築などの不確実なものに対する価値を確実なものにしていると感じた。

改善点

構成について、一枚のページに対して、文章が多すぎる点が気になった。他の企業の統合報告書に比べて、写真やイラストを上手く活用出来ていないと感じた。どれだけ文章でいいことが書いてあっても、これでは読む気がなくなってしまう。多少ページ数は増えても、途中で一枚使って話題の転換を強調したり(2 ページ目のように)、用いられている図や表ももっと親しみやすい表記に変したりするべきである。技術についての表記であるが故に、堅苦しくなってしまう気持ちは分かるが、「人と技術を繋ぐ」をテーマにしている以上そうした読み手への工夫をこなすべきだと考える。